

**令和7年度 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）
事業実施結果報告**

事業名	滋賀の観光産業における“新”観光力創出プロジェクト(1/3年目)					
所管課	森の文化推進課、観光物産課					
交付金額	4,326,495 円 （対象事業実績費:8,652,990 円）					
計画	1 「鈴鹿の森の文化」魅力発信事業 鈴鹿の森の様々な地域資源が育まれたフィールド全体を「森の文化フィールドミュージアム」と位置付け、森の魅力や重要性、そこで育まれた歴史文化を発信し、更に多くの人々を誘客することで森と人のつながりを取り戻し、ネイチャーポジティブな考え方を育む事業を展開する。 2 人流データを活用した観光地分析及び周遊促進事業 国内観光客の来訪地や発地、属性、周遊情報等が把握できる人流データを活用し、収集した情報をもとに効果的かつ効率的なプロモーション展開等を図ることを目的として実施するもの。					
重要評価指標(KPI)	KPI① 観光消費額(億円) KPI② 延べ宿泊者数(万人) KPI③ 外国人延べ観光入込客数(万人)					
	【県全体実績値】					
	KPI	事業開始前 (R6)	R7 実績値 (目標値)	R8 実績値 (目標値)	R9 実績値 (目標値)	KPI 増加分の 累計
	①	1,717 億円	集計中 (1,997 億円)	— (2,112 億円)	— (2,227 億円)	510 億円
	②	379 万人	403.6 万人 (406 万人)	— (420 万人)	— (435 万人)	56 万人
	③	4,470 万人	4479.6 万人 (4,484.3 万人)	— (4,491.8 万人)	— (4,499.3 万人)	29.3 万人
【市実績値】						
KPI	事業開始前 (R6)	R7 実績値	R8 実績値	R9 実績値		
①	※市の観光消費額については集計対象外					
②	179,717 人	177,960 人	—	—		
③	7,033 人	13,381 人	—	—		

実績

1 「鈴鹿の森の文化」魅力発信事業

事業費 3,658,990 円 (国 1/2 1,829,495 円)

- (1) 鈴鹿の森の自然環境調査事業 1,194,000 円 (率 1/2 597,000 円)

鈴鹿の森の自然環境の魅力を発信するため、哺乳類や魚類等の生息状況調査を行った。

- ・哺乳類相解析調査業務 (センサーカメラ設置による鈴鹿の森の哺乳類相の解析調査) 12 種
- ・魚類相解析調査業務 (鈴鹿の森に生息するイワナ原種やイワナをはじめとする魚類の生息状況調査及び魚類相の解析調査) 7 種

- (2) 自然体験プログラム作成事業 869,000 円 (国 1/2 434,500 円)

森の資源を活用して楽しめる学習プログラムを構築した。

- ・鈴鹿の森周辺にある素材 (ムラサキや草木等) を活用した染物体験プログラム 3 本
- ・子供を対象とした竹工作や焚き火実習等の自然体験型学習プログラム 1 本
- ・木地師やまの子の家周辺の資源を活用した体験型プログラムツアー 18 本



- (3) C A T V 情報番組放映事業 990,990 円 (国 1/2 495,495 円)

森の魅力を広く発信するため、各種調査結果を生かしながら情報番組を作成し放映した。

- ・年間 3 本の動画を作成
- ・ケーブルテレビで初回放送 3 回、再放送 18 回を実施



- (4) 鈴鹿の森航空写真撮影事業 605,000 円 (国 1/2 302,500 円)

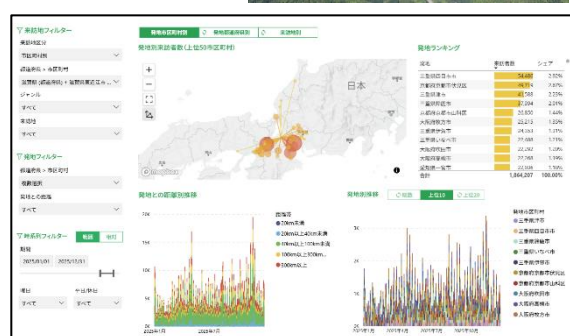
広大な自然と歴史文化が育まれた風景を記録し森の魅力発信に活用するため、鈴鹿の森の航空写真を撮影した。

- ・鈴鹿の森上空 11 地点からの撮影
→ 撮影データは各種広報媒体で活用



2 人流データを活用した観光地分析及び周遊促進事業 事業費 4,994,000 円 (国 1/2 2,497,000 円)

- ・県が実施する観光入込客数統計調査において事業者協力のもと収集していたデータに加え、GPS 情報をもとに計測が難しい施設などにおいても実測値に近いデータを収集することができた。
- ・分析ツールの使用に関し、伴走支援及び操作研修を行うことで、市において情報収集、分析を実施できるようになり、自走化を図ることができた。



「出典：九州経済調査協会・ブログウォッチャー『おでかけウォッチャー』
令和 8 年 6 月 18 日時点

今後の方針

1 「鈴鹿の森の文化」魅力発信事業

自然・民俗・歴史分野の調査を継続して行うことで森の魅力を掘り起こすとともに、自然体験プログラムを試行することで、来訪客が鈴鹿の森に関わる形を具体化していく。また、鈴鹿の森及び森から始まる流域の魅力発信に向けたホームページ制作、子供や親世代を対象としたアニメ作成、市内在住者を対象としたケーブルテレビの放映及び新聞・動画広告による広域発信を行う。

2 人流データを活用した観光地分析及び周遊促進事業

令和 8 年度以降については引き続き情報の収集、分析を進めるとともに、分析結果をもとに効果的なプロモーション活動や周遊促進事業等を実施する。